

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

構築物及び什器備品……定額法によっている。

ただし、従来、減価償却を行っていなかった固定資産については、新会計基準適用初年度の期首の帳簿価額を取得価額とみなし、適用初年度から実施することとした。

この減価償却を実施するに際して、適用する耐用年数は、新規に取得した場合の耐用年数から経過年数を控除した年数によっている。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

3. 会計方針の変更

該当なし

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

| 科 目 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 |
|--------------|-----------|-------|-----------|---------|
| 基本財産 | | | | |
| 小計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特定資産 | | | | |
| 備品購入引当特定資産 | 315,000 | 0 | 0 | 315,000 |
| ハム・ソーグ特別積立預金 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 0 |
| ぶらり特別積立預金 | 500,000 | 0 | 0 | 500,000 |
| 小計 | 1,815,000 | 0 | 1,000,000 | 815,000 |
| 合計 | 1,815,000 | 0 | 1,000,000 | 815,000 |

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

| 科 目 | 当期末残高 | (うち指定正味財産からの充当額) | (うち一般正味財産からの充当額) | (うち負債に対応する額) |
|--------------|---------|------------------|------------------|--------------|
| 基本財産 | | | | |
| 小計 | 0 | 0 | 0 | - |
| 特定資産 | | | | |
| 備品購入引当特定資産 | 315,000 | 0 | (315,000) | - |
| ハム・ソーグ特別積立預金 | 0 | 0 | 0 | - |
| ぶらり特別積立預金 | 500,000 | 0 | (500,000) | - |
| 小計 | 815,000 | 0 | (815,000) | - |
| 合計 | 815,000 | 0 | (815,000) | - |

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

| 科 目 | 取得価額 | 減価償却累計額 | 当期末残高 |
|-----|------|---------|-------|
|-----|------|---------|-------|

| | | | |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 構築物 | 1,688,615 | 910,543 | 778,072 |
| 什器備品 | 1,044,230 | 562,007 | 482,223 |
| 入会金 | 900,000 | 900,000 | 0 |
| 合計 | 3,632,845 | 2,372,550 | 1,260,295 |

8.債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該資産の当期末残高
該当なし

9.保証債務等の偶発債務
該当なし

10.満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

11.補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
該当なし

12.基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
該当なし

14.関連当事者との取引の内容
該当なし

15.重要な後発事象
該当なし

16.その他
該当なし